

学 会 記 事

§ 平成 26 年第 3 回日本核医学会理事会 議事録

日 時：平成 26 年 8 月 6 日（水）

12 時 00 分～16 時 30 分

場 所：日本アイソトープ協会 第 3 会議室

出席者

理事長：井上登美夫

理 事：飯田秀博，石井一成，伊藤健吾，
内山眞幸，絹谷清剛，汲田伸一郎，
小泉 潔，佐賀恒夫，阪原晴海，
佐々木雅之，千田道雄，玉木長良，
近森大志郎，外山 宏，中川原譲二，
橋本禎介，畑澤 順，藤井博史，
細野 眞，間賀田泰寛，松田博史，
望月輝一，渡邊 浩

監 事：戸川貴史，田代 学

書 記：中本裕士

事務局：神田正子

議 題

I. 審議事項

1. 第 57 回学術総会会長

(1) (井上登美夫理事長)

第 57 回学術総会会長に井上登美夫理事長が就任することが承認された。

2. 日本核医学会賞・研究奨励賞・リターニー奨励賞

(2) (玉木長良理事)

第 53 回日本核医学会賞に横浜市立大学立石宇貴秀先生，第 11 回研究奨励賞に大阪大学渡部直史先生，北海道大学真鍋治先生，北海道大学病院岡本祥三先生が決定した。最優秀賞は総会時に決定する。第 1 回リターニー奨励賞に，宮崎大学西井龍一先生が決定した。

3. 平成 26 年度ワーキンググループ

(3) (松田博史理事)

継続 2 課題，新規 1 課題を採択する。

4. 名誉会員，功労会員の推薦

(4) (小泉潔理事)

名誉会員に福永仁夫先生を推薦することが決定した。功労会員に 7 名を推薦することが決定。

5. 平成 26 年度予算案（案）

(5) (阪原晴海理事)

・ワーキンググループが 3 課題に減少したため，分科会・ワーキンググループ助成金の総額を減額する。

・和文誌の改革（論文，ニュースレターへの分割など）により減額見込みとなる経費 100 万円を，世界核医学会積立金にあてる。

・雑誌等刊行費の中の会議費と委託費を，国際情報発信強化事業費に移す。

6. 平成 28 年第 16 回春季大会の開催地

(6) (細野眞理事)

大阪で開催することが承認された。

7. 理事・監事選挙の被選挙権資格

(7) (井上登美夫理事長)

中間法人の理事・監事の任期 4 年間の終了年度と，一般社団法人の理事・監事の任期 2 年間の終了年度が同じ条件になるように，理事・監事選挙の被選挙権資格満 63 歳未満を満 65 歳未満に定款細則を改訂する案が承認された。

8. Florbetapir (¹⁸F) 合成装置 (NEPTIS plug-01) の医療機器承認

(8) (千田道雄理事)

今後アミロイドイメージングが保険診療となる可能性が高く，その際に要件として PET 薬剤製造と撮像には学会認証を，読影には学会講習受講を，義務づけること等を内容とする「3 学会合同アミロイドイメージングガイドライン」（現在作

成中)の概要を承認した。検査の適応については日本核医学会のみでは決められず修正が加わるかもしれない。

9. 日本心臓核医学会英文雑誌名 *Annals of Nuclear Cardiology (ANC)* (玉木長良理事)
異議なし。

10. 表示付認証機器 ^{57}Co 面線源の安全取扱いに関するガイドライン(案) (9) (渡邊浩理事)
拝見した。

11. 米国核医学分子イメージング学会との MOU (10) (井上登美夫理事長)
Article 2 の 1 の誤記 “JRS” は “JSNM”

招聘するのは理事長+1-2人とする。交通費などは自国側で調達し、登録費を互いに免除する。

12. 和文誌分割(論文, ニュースレター)に関して (11) (絹谷清剛理事)

現在の和文誌の内容について, 論文と学会からの伝達事項などをわける。論文, 抄録, ガイドラインなどは J-stage のシステムを用いてオンラインで見ることができるようにする。学会からのお知らせはニュースレターにて周知する。総会での WEB 抄録作成に関する費用は大会担当者の負担にする。これまでの紙媒体の総会抄録集を全会員に配布することは廃止の方向(少なくとも学会誌の正規の号として会員全員に郵送することはない)ということで異議なし。ただし, CD としての配布や希望者への販売などの代案を検討することとなった。

13. 世界核医学会誘致委員会 (12) (絹谷清剛理事)

① WFNMB への会費

会員の数を評議員数から, 核医学専門医数に変更することが決定した。

今月末までに納めて, カンクンでの世界核医学会時にアピールする。会費追加分は春季大会の黒字分を用いる。

② 積み立て金

和文誌の改革(論文, ニュースレターへの分割など)により減額見込みとなる経費を, 2022 年まで世界核医学会への上納金

約 1000 万円を積み立てる。

14. J-RIME 診断参考レベル作成に伴う核医学検査全国調査実施承認 (石井一成理事)

検査時の放射性薬剤の投与量に関して, 検定量ではなく, 実投与量を調査すべく, WEB アンケートにて実施したい→承認。

15. 患者の核医学診療施設入退出に係る安全確保に関するガイドライン(案) (13) (石井一成理事)

患者は必ずしもスリッパを履き替えなくてもよいとするガイドラインを作成。医療従事者はこれまで同様に履き替えを継続する。異議なし。

16. PET 核医学委員会 (23) (細野眞理事)

① 日本核医学会アミロイド PET 読影講習

② アミロイド PET 読影講習小委員会設置に伴う PET 核医学委員会委員の増員

③ 『PET 検査件数に関するアンケート調査』につき, FDG 医薬品企業に協力依頼

異議なし。

17. “一般社団法人日本核医学会における臨床研究の利益相反管理に関する指針” およびその“施行細則”, “利益相反自己申告書”の修正 (38) (藤井博史理事)

異議なし。

18. その他

① 町田喜久雄先生(名誉会員)よりの提言 (14) (井上登美夫理事長)

核医学検査が増えないのは核医学診療の設備基準が厳しくて一般病院では設置できないのが一因と考えられるので, 大規模な換気や排水施設を必要としない施設を認めるような働きかけを学会としてできないか? 単に施設基準の規制緩和の問題のみではなく, 核医学をいかに盛り上げるか, 核医学の専門医の必要性の議論にも通じるので, 今回は意見として承り, 適宜検討していく。

II. 報告事項

1. 第 54 回学術総会準備状況報告

(15) (畑澤順会長)

海外の招聘演者に抄録の提出を求めたところ、フルペーパーに近い分量の提出もあった。

第 13 回 ARCCNM 年次総会準備状況

(16) (畑澤順会長)

2. 第 55 回学術総会準備状況報告

(小泉潔次期会長)

3. 第 56 回学術総会準備状況報告

(伊藤健吾次々期会長)

4. 第 15 回春季大会状況報告

(17) (井上登美夫大会長)

5. 会計報告 (18) (阪原晴海理事)

6. 委員会報告

1) 編集委員会 (11) (絹谷清剛理事)

2) 教育・専門医審査委員会

(24) (望月輝一理事)

3) PET 核医学委員会 (25) (細野眞理事)

4) 健保委員会 (19) (伊藤健吾理事)

5) 広報委員会 (内山眞幸理事)

6) リスクマネジメント委員会

(中川原譲二理事)

7) 放射線防護委員会 (20) (石井一成理事)

① PET 用サイクロトロンに関するクリアランスおよび放射化物質の取り扱いに関する小委員会 (千田道雄理事)

8) 利益相反審査委員会・倫理委員会

(39) (藤井博史理事)

9) 学会賞選考委員会 (玉木長良理事)

リターニー賞について、「帰国後 1 年以上経過」を条件に追加する。

10) 核医学領域における薬剤師の活動のあり方検討委員会 (間賀田泰寛理事)

11) 分子イメージング戦略会議

(21) (千田道雄理事)

① 早期探索 5 拠点 PET 連絡協議会

(畑澤順理事)

12) 小児核医学検査適正施行委員会

(小泉潔理事)

13) 内用療法戦略会議 (絹谷清剛理事)

内用療法普及に向けた診療報酬などの相談は、がん対策課とも協議する方向であることが報告された。

14) 将来計画・経営戦略委員会

(22) (外山宏理事)

学会費については継続して検討する。学術総会演題応募の会員要件については継続して検討する。

15) 予算委員会 (井上登美夫理事長)

16) 医療機器としての単体ソフトウェアの開発支援と診断指標の標準化に関する委員会

(26) (飯田秀博理事)

規制の実際について総会の中で緊急報告会(2014 年 11 月 7 日(金))を開催して報告する。規制の趣旨を踏まえて、有用なソフトが医療の中で活用されるための道筋を作っていく。

7. ワーキンググループ (松田博史理事)

8. 分科会活動

1) 腫瘍・免疫核医学研究会

(27) (佐賀恒夫理事・絹谷清剛理事)

フェオ MIBI の供給廃止。

2) 日本脳神経核医学研究会 (石井一成理事)

3) 日本心臓核医学会 (28) (近森大志郎理事)

4) 呼吸器核医学研究会 (内山眞幸理事)

5) PET 核医学分科会 (29) (細野眞理事)

9. 国外学会等連携

1) 世界核医学会 (12) (絹谷清剛理事)

2022 年世界核医学会招致委員会

日本が海外の核医学医師に対して、いかに教育面で貢献しているかをアピールするとよい。

例として、この 7 月にはアジアの核医学医師向けのセミナーが放医研で開催された、など。

2) 米国核医学会 (玉木長良理事)

SNMMI leadership meeting をセントルイスで行った。その際に、来年の教育セッションについて、PET がん検診をテーマとする旨、話し合われた。Galley L Dillehay 前会長と千田先生の間で具体的な話を進める旨の報告があった。来年の SNMMI 年次大会で本学会提供のセッション

ンとしてPETがん検診を取り上げる計画である。

- 3) ヨーロッパ核医学会 (IAEA を含む)
(千田道雄理事)
- 4) アジアオセアニア核医学会 (ARCCNM 兼務)
(30) (外山宏理事)
日中核医学交流会 (31) (外山宏理事)
日韓中核医学会
10. 理事長報告 (32) (井上登美夫理事長)
11. その他
 - 1) 第51回アイソトープ・放射線研究発表会
(33) (佐々木雅之理事)
 - 2) 4学会合同アセタゾラミド適正使用指針作成委員会
(34) (中川原讓二理事)
アセタゾラミドについては、国内で8例の重篤な副作用が報告されているが、その原因については不明であり、①アナフィラキシー、②心原性急性肺水腫、③代謝性アシドーシスなどの複合要因が考えられる。『適正使用指針』は9月末までに作成予定。同薬の『医薬品の適応外使用事例申請書』は、7月末までに提出済み。
 - 3) 日本核医学専門技師認定機構の事業日程
(35) (小泉潔理事)
 - 4) Mo-99 国内製造事業化に向けた検討委員会
(36) (渡邊浩理事)
 - 5) 小動物インビボイメージング研究会
(40) (間賀田泰寛理事)

Ⅲ. 確認事項

1. 前回議事録 (案) (37)
2. 理事会日程
第4回 11月 第54回学術総会会場

§ 平成26年第4回日本核医学会理事会 議事録

日時：平成26年11月5日(水)

14時00分～18時00分

場所：大阪国際会議場 804号室

出席者

理事長：井上登美夫

理事：飯田秀博，石井一成，伊藤健吾，
内山眞幸，絹谷清剛，汲田伸一郎，
小泉 潔，佐賀恒夫，阪原晴海，
佐々木雅之，千田道雄，玉木長良，
近森大志郎，外山 宏，中川原讓二，
橋本禎介，畑澤 順，藤井博史，
細野 眞，間賀田泰寛，松田博史，
望月輝一，渡邊 浩

監事：戸川貴史

書記：中本裕士

事務局：神田正子

欠席者

監事：田代 学

議 題

I. 審議事項

1. 平成26年度事業計画 (1) (小泉潔理事)
社員総会資料7-9ページを報告した。
→承認された。
2. 平成26年度収支予算案 (2) (阪原晴海理事)
平成26年度一般社団法人日本核医学会収支予算書について説明があり、承認された。
3. 塩化ラジウム (Ra-223) 注射液を用いる内用療法
の適正使用マニュアル (案)
(3) (絹谷清剛理事)
2年後の保険収載に向けて5学会共同で作成する。
講習会を開催予定である。
→承認された。後日、マニュアルを回覧する。
4. 第16回春季大会の開催日程
(4) (細野眞理事)

日本医学放射線学会の学術総会と近接するが、
2016年4月23-24日 大阪国際交流センターで

開催する。

→承認された。

参加者が増加して、多数を収容できる部屋が複数必要なため、新しいコースを設定するには、会場探しが検討課題となっている。

5. その他
特になし。

II. 報告事項

1. 第54回学術総会状況報告 (畑澤順会長)
英語化を開始したためか、演題が減った。
学会アプリを作成、導入した。

第13回 ARCCNM 年次総会状況報告
(畑澤順会長)

演題数 107, 参加者 120 人と比較的集まった。

アジアの専門医試験を実施し、63 人応募、30 人を受験者として選び、27 人が試験を受けた。

国によって試験問題の内容が様々で、日本ではなじみのないものもあった。

2. 第55回学術総会準備状況報告
(19) (小泉潔次期会長)

海外の招待講演演者に関してはすでに内諾取得済み。

参加登録費は消費税が 10% に上がるかにも依存し、まだ決定していない。

3. 第56回学術総会準備状況報告
(伊藤健吾次々期会長)

日本核医学技術学会側の大会長が決定した。

4. 第57回学術総会準備状況報告
(井上登美夫次々期会長)

2017 年 10 月 5-8 日 パシフィコ横浜にて開催する。

第 12 回 AOFNMB と共催となるため、学術会議に開催費用の支援申請を予定している。

5. 第 15 回春季大会状況報告
(5) (井上登美夫大会長)

2015 年 4 月 25-26 日 タワーホール 船堀にて開催する。

今年の会場の場所は好評だったが、世界核医学会の誘致に向けて支出を節約する必要がある。

アミロイド PET 読影講習会と核医学専門技師コースを新設する。

6. 第 6 回社員総会の議事

(1) (井上登美夫理事長)

社員総会の議案について、確認した。

「臨床研究の利益相反管理に関する指針」の改訂、理事・監事の選出方法についての定款細則の変更に関する討議は重要事項として総会の前半で行う。

7. 平成 25 年度事業報告 (1) (小泉潔理事)

社員総会資料 1-6 ページを報告した。

8. 平成 25 年度収支決算報告
(2) (阪原晴海理事)

平成 25 年度正味財産増減計算書と貸借対照表につき報告があった。

9. 会計報告 (2) (阪原晴海理事)

平成 25 年度月別正味財産増減計算書につき報告があった。

10. 委員会報告

1) 編集委員会 (絹谷清剛理事)

和文誌をニュースと論文掲載に分ける。総会の抄録集は紙媒体として残すことになる。

総会の WEB アプリについて、上記のことと合わせ、Medical Tribune と交渉中である。

2) 教育・専門医審査委員会
(6) (望月輝一理事)

一般社団法人日本専門医機構による未承認専門医に関する説明会が開催された。

核医学を含めた未承認診療領域 (29 領域) についてはこれからの検討事項であることが報告された。

日本医学放射線学会、日本超音波医学会等のカリキュラムを参考にして、日本核医学会の独自性があるカリキュラムを 6 月に開催予定であるヒアリングまでに、作成する必要がある。

画像を読むだけではなく、放射性医薬品を安全に使って医療に貢献するという立場を主張するとよいのではとの意見があった。

- 3) PET 核医学委員会 (7) (細野眞理事)
 春季大会 PET 研修セミナーの試験問題が難化しつつある。
 アミロイド PET 読影講習を Florbetapir 合成装置の承認を取得したイーライリリー社の協力を得て行う。来年の春季大会で定期講習を、それまでに臨時で行う。
 PET 薬剤製造認証施設、PET 撮像認証施設を web で公開している。
- 4) 健保委員会 (8) (伊藤健吾理事)
 第 54 回学術総会期間中の 11 月 8 日に健保委員会を開催し、平成 28 年度診療報酬改定にかかる要望項目を検討する。商用供給されたソフトウェアを用いた場合の加算に関しては、規制の方向性が十分に定まっていないのが問題である。診療報酬に反映させるためには、診断精度があがる、アウトカムが変わるというエビデンスが必要かもしれない。
- 5) 広報委員会 (内山眞幸理事)
 ホームページの管理会社を考慮中。今年度は年間 307 万円費やした。
 大手の会社、小さい会社、それぞれに利点・欠点がある。
 ミスの訂正だけでもお金がかかる。ホームページに掲載するデータはどのような形式で提出するとアップロードしやすいか、コツがある。手引きがあるとよい。
- 6) リスクマネジメント委員会 (中川原譲二理事)
 ダイアモックス負荷についての議論は進んでいる。どう対応するかを盛り込んだガイドラインが必要で、「脳の循環予備能を評価する」として、適応疾患の制限は設定しない予定である。
 FDG の投与量が想定より多くなった事例が報告された。投与装置の不具合が疑われたので、本委員会にてメーカーに確認することになった。
- 7) 放射線防護委員会 (20) (石井一成理事)
 実投与量調査にむけて準備中。
- ① PET 用サイクロトロンに関するクリアランスおよび放射化物質の取り扱いに関する小委員会 (9) (千田道雄理事)
 アイソトープ協会がサイクロ廃棄調査を行い、集計結果はアイソトープニュースで公開予定。
- 8) 利益相反審査委員会・倫理委員会 (10) (藤井博史理事)
 日本医学会医学研究の COI マネージメントに関するガイドラインに沿った、本学会の「臨床研究の利益相反管理に関する指針」の改正を、現行の指針に基づいて、社員総会において提案する。
 英語版との乖離を修正している。
- 9) 学会賞選考委員会 (玉木長良理事)
 日本核医学会研究奨励賞 3 人の発表後に委員会を開き最優秀賞を決定する。
- 10) 核医学領域における薬剤師の活動のあり方検討委員会 (間賀田泰寛理事)
 現在日本病院薬剤師会が実施した実態調査についての報告待ちであり、受領後に引き続き検討予定。
- 11) 分子イメージング戦略会議 (11) (千田道雄理事)
 院内製造 Florbetapir 使用におけるガイドラインの中に学会の薬剤製造施設認証、撮像施設認証および読影講習受講が必要と明記する予定である。
 当局は無菌性の担保と品質試験データの信頼性を重視している。
 Florbetapir 合成装置の承認審査にて、学会の役割に言及がなされた。
 定性診断のみならず、SUVR を測定して定量評価ができるようにすると判定の再現性があるので、将来 SUVR 解析ソフトが用いられると予想される。ソフトウェアの管理・使用にリンクする問題である。
- ① 早期探索 5 拠点 PET 連絡協議会 (畑澤順理事)

12) 小児核医学検査適正施行委員会

(小泉潔理事)

Global Initiative での小児核医学検査投与量のアンケート調査で、本邦から 98 の施設からアンケート返答あり、今後集計予定であると内山副委員長から報告があった

13) 内用療法戦略会議 (絹谷清剛理事)

根治切除不能な分化型甲状腺癌に対する分子標的薬治療の適応患者選択の指針を作成する。

内用療法におけるヨウ素制限についてアンケートを行った。

内用療法で薬剤料を設定できるような節を作成する方向で尽力してもらえ可能性がある。

14) 将来計画・経営戦略委員会

(12) (外山宏理事)

正会員の退会が多くなった理由を検討する必要がある。

商用供給されるソフトウェアの使用は学会員であることを前提とする規則を作ってはどうか？

15) 予算委員会 (井上登美夫理事長)

特になし。

16) 医療機器としての単体ソフトウェアの開発支援と診断指標の標準化に関する委員会

(13) (飯田秀博理事)

2014 年 11 月 25 日から法的規則が始まる。海外はすでに先行している状況にある。軽微であっても画像をみて診断に使うとなると医療機器という扱い。提供メーカーは医療機器としての製造と維持管理に関する責任をもつ必要がある。基準があるものについては認証を、ない場合には PMDA による承認を得る。研究用ソフトについては、今後学会の考えが求められる。医療機器ソフトウェアの製造および製造販売を行うには、学歴と経験について必要要件がある。この要件に代わるプログラム医療機器講習会が、今回に限って開催され、多くの参加者があった。

11. ワーキンググループ (松田博史理事)

2つの継続ワーキンググループについては意見を送付し、1つは新規採用した。

12. 分科会活動

1) 腫瘍・免疫核医学研究会

(佐賀恒夫理事・絹谷清剛理事)

2015 年は佐々木雅之理事が会長をつとめる。

2) 日本脳神経核医学研究会 (石井一成理事)

3) 日本心臓核医学会 (14) (近森大志郎理事)

4) 呼吸器核医学研究会 (内山眞幸理事)

5) PET 核医学分科会 (15) (細野眞理事)

サイクロ施設の登録はほぼ 100% を保っているが担当者の移動等の際にも引き継いでいただけるよう積極的に働きかけている。

13. 国外学会等連携

1) 世界核医学会 (絹谷清剛理事)

2022 年世界核医学会招致委員会

韓国は足並みがそろっていないようだが、SNMMI がカナダを応援する可能性が大きい。

来年、再来年は日本からの SNMMI の演題数が増えるように努力してはどうか。

アジアの教育に役立っていることもアピールする。

2) 米国核医学会 (玉木長良理事)

SNMMI2015 にて本学会提供の PET がん検診に関するジョイントシンポジウム(教育セッション)を申請し(企画は千田道雄理事)、採択された。演者は、濱島ちさと先生(検診の疫学)、南本亮吾先生(全国調査の報告)、塚本江利子先生(PET がん検診の実際)にお願いした。濱島ちさと先生の旅費は学会で負担する。

学会中に施設間協定(学会同士の連携)の調印式を行う。

3) ヨーロッパ核医学会 (IAEA を含む)

(千田道雄理事)

エーテボリにてリーダーシップミーティングあり、SNMMI 同様に EANM との間にも MOU を締結することが来年の SNMMI の場(ボルチモア)にて予定されている。それまでに両方の理事会を通す必要がある。また、互いの学

術総会で教育講演やブースを設ける（今回も EANM のブースを設ける）。

- 4) アジアオセアニア核医学会（ARCCNM 兼務）
 (16) (外山宏理事)
 日中核医学交流会 (17) (外山宏理事)
 中国核医学会は会員が多いらしいので、そのノウハウを日本核医学会でもいかせないか？
 日韓中核医学会
14. 理事長報告 (井上登美夫理事長)
15. その他
- 1) 幹事長について (井上登美夫理事長)
 幹事長に中本裕士先生，副幹事長に石守崇好先生と金田朋洋先生が就任したことを報告した。
- 2) 国際会議開催における学会の助成について (井上登美夫理事長)
 国際会議を開催した場合は，学会が助成することが承認された。

Ⅲ. 確認事項

1. 前回議事録（案） (18)

§ 第 6 回一般社団法人日本核医学会 社員総会 議事録

平成 26 年 11 月 7 日（金）18:00-19:00
 大阪国際会議場（グランキューブ大阪）
 大ホール（第 1 会場）

資料に基づき物故会員の報告があり，全員で黙禱を捧げた。

議 題

1. 第 54 回日本核医学会学術総会報告
 畑澤順会長より今回の学術総会についての報告があった。
2. 第 55 回日本核医学会学術総会準備状況報告
 小泉潔次期会長より第 55 回日本核医学会学術総会が平成 27 年 11 月 5 日～7 日に東京新宿区ハイアットリージェンシー東京で開催されることが報告された。

井上登美夫理事長より社員総会が成立したことが報告された後，井上登美夫理事長が，議長として議事に入った。

評議員定員 183 名（成立出席者数 92 名，定款の変更の承認に必要な有効票数は，122 票以上，定款を除く議事承認に必要な有効票数は 92 名以上）

当日出席者 103 名，委任状 63 名，総計 出席総数 166 名

3. 「一般社団法人日本核医学会における臨床研究の利益相反管理に関する指針」の改訂
 資料に基づき利益相反審査委員会委員長藤井博史理事から，「一般社団法人日本核医学会における臨床研究の利益相反管理に関する指針」および「施行細則」の改訂点について説明があり承認された。

4. 理事・監事の選出方法についての定款細則変更

資料に基づき庶務担当小泉潔理事から、日本核医学会定款細則第8章「理事の選出」第27条と第9章「監事の選出」第30条の変更点について報告があり、評議員の異議等もなかった。

5. 平成25年度事業報告

資料に基づき庶務担当小泉潔理事から事業報告があり、承認された。

絹谷清剛理事より、2022年世界核医学会の誘致活動について以下の依頼があった。

学会の誘致活動を周知させるため、国内外での宣伝活動と、ホームページに掲載している誘致活動ロゴをスライドやポスターへの使用などの協力を会員の方々にお願いした。

6. 平成25年度損益決算報告

資料に基づき会計担当阪原晴海理事から正味財産増減計算書および貸借対照表についての報告があった。戸川貴史監事から会計監査報告があり、損益決算が承認された。

7. 平成26年度事業計画案

資料に基づき、庶務担当小泉潔理事より事業計画につき提案され、承認された。

小泉潔理事より資料に基づき、名誉会員1名、功労会員7名の推薦があり承認された。

8. 平成26年度収支予算案

資料に基づき会計担当阪原晴海理事より予算案につき提案があり承認された。

9. 平成26年度日本核医学会社員

資料に基づき庶務担当小泉潔理事から、平成26年度役員について報告があり承認された。

10. その他

絹谷清剛理事より、ANMのインパクトファ

クターが来年は上がるだろうとの報告があった。また、厚労省の規定している「臨床試験に関する倫理指針」が改訂され、来年度から実施されることになっていることが報告された。

11. 小泉潔理事から任意団体日本核医学会は平成25年度について特に活動がなかったことが報告された。

12. 井上登美夫議長より、閉会宣言がなされた。